



## Splunk クラスタの管理

この章の内容は、次のとおりです。

- [インスタント Splunk クラスタの作成](#) (1 ページ)
- [ワークフローを使用した Splunk クラスタの作成](#) (7 ページ)
- [Splunk クラスタ作成のカスタマイズ](#) (8 ページ)
- [Splunk クラスタへの ベア メタル ノードの追加](#) (13 ページ)
- [Splunk ディストリビューションから到達不能なクラスタ ノードを削除する](#) (16 ページ)
- [NFS をサポートしてアーカイブのノードに Splunk クラスタを展開する](#) (16 ページ)
- [Splunk クラスタの管理](#) (17 ページ)

## インスタント Splunk クラスタの作成

UCS サービスプロファイルテンプレートの定義済みの値でインスタント Splunk クラスタを作成するには、次の手順を使用します。インスタント Splunk クラスタの作成時、コンテナタイプが Splunk の新しい UCS SP テンプレートである QUICK\_UCS\_SPLUNK テンプレートが作成されます。新しいマルチサイト Splunk クラスタの作成、または既存の Splunk クラスタをマルチサイト Splunk クラスタに移行できます。**UCS CPA Migrate Splunk Cluster to Multi-Site** ワークフローを使用すれば、既存の Splunk クラスタをマルチサイト Splunk クラスタに移行することができます。移行が実施されるまで、Cisco UCS Director Express for Big Data でアカウントを完全に管理することはできません。ワークフローを実行する前に、**Splunk クラスタ マルチサイト設定ジェネレータ**タスクをアカウントおよびサイト情報用に変更する必要があります。

- ステップ 1 [Solutions] > [Big Data] > [Containers] を選択します。
- ステップ 2 [クラスタ展開テンプレート] をクリックします。
- ステップ 3 [インスタント Splunk クラスタの作成] をクリックします。
- ステップ 4 [インスタント Splunk クラスタの作成] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Big Data Account Name] フィールド	ビッグデータ アカウントの名前。

名前	説明
[UCSM Policy Name Prefix] フィールド	UCSM ポリシー名のプレフィックス。
[Monitoring Console Protocol] ドロップダウン リスト	[HTTP] または [HTTPS] プロトコルを選択します。
[Monitoring Console Port Number] フィールド	ポート番号を入力します。1024 ~ 65535 の整数を入力します。  Web サーバのパスに到達できるように、Linux OS による予約済みポートの使用は避ける必要があります。
[SSH (ルート) パスワード (SSH (root) Password) ] フィールド	SSH ルートパスワード。  (注) SSH ユーザ名は root ユーザに関連します。
[SSH パスワードの確認 (Confirm SSH Password) ] フィールド	SSH ルートパスワードを入力します。
[Splunk Manager のパスワード (Splunk Manager Password) ] フィールド	管理コンソールパスワード。
[Splunk Manager のパスワードの確認 (Confirm Splunk Manager Password) ] フィールド	管理コンソールパスワードを入力します。
[OS バージョン (OS Version) ] ドロップダウン リスト	このクラスタのサーバにインストールするオペレーティングシステムを選択します。
[Splunk ディストリビューションバージョン (Splunk Distribution Version) ] ドロップダウン リスト	このクラスタに使用する Splunk Enterprise バージョンを選択します。

名前	説明
[Multi-UCSM (Multi-UCSM)] チェックボックス	<p>複数の UCSM Splunk アカウントを使用する場合、[Multi-UCSM] チェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) 複数UCSMアカウントオプションを使用する場合、ステップ7で説明されているように、Splunk サーバロールを設定できます。[UCSM固有の入力へのエントリの追加 (Add Entry to UCSM Specific Inputs)] テーブルでUCSM固有の入力を追加できます。</p> <p>次のワークフローは、インスタント Splunk クラスタの作成時とカスタマイズされた Splunk クラスタの作成時に作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF</li> <li>• Single UCSM Server Configuration WF (この WF はUCSMアカウントごとにトリガーされます。たとえば、UCSM 120、UCSM 121)</li> <li>• UCS CPA ノードベア メタル (このワークフローは、ノードごとにトリガーされます)</li> </ul>
[UCS Manager Account] ドロップダウンリスト	このクラスタの Cisco UCS Manager アカウントを選択します。
[Organization] ドロップダウンリスト	このクラスタのサーバがある組織を選択します。
[UCS SP Template] テーブル	クラスタの作成に、既存の UCS サービス プロファイル テンプレートを選択します。
[PXE VLAN ID] フィールド	PXE VLAN ID を入力します。1 ~ 3967 または 4048 ~ 4093 の整数を入力します。

**ステップ 5** [Splunk サーバロール] テーブルには、Splunk サーバロールを編集するには、そのロールの行を選択して、[編集 (Edit)] をクリックします。

**ステップ 6** [Splunk サーバロール入力の編集 (Edit Splunk Server Roles Entry)] 画面で、次のフィールドに値を入力し、[送信 (Submit)] をクリックします。[Splunk サーバロール エントリの編集] 画面に表示されるフィールドは、サーバロールの選択に基づいています。

(注) ベアメタルエージェントにロールを展開し、ライセンスマスター、クラスタマスター、デプロイメントサーバのベアメタルを選択するなどの管理者ロールは、新しいクラスタの作成時のみサポートされます。また、管理者ロールに既存の IP アドレスを割り当てることも、新規にクラスタを作成する場合のみサポートされます。

名前	説明
[Node Type] フィールド	Splunk ノードのロールを表示します。
[Node Count] フィールド	Splunk クラスタ内の選択したノードタイプのノード数です。
[Host Name Prefix] ドロップダウン リスト	この Splunk クラスタのホスト名のプレフィックスを選択します。
[SSD Boot Drives Available for OS] チェック ボックス	RAID レベル OS ディスクのサーバディスクの可用性を確認しない場合は、このチェックボックスをオンにします。サーバに SSD が含まれていることを確認します。  チェック ボックスをオンにしていない場合、その RAID レベルに基づいて、OS ディスクとデータディスクの両方のディスクの可用性が検証されます。  (注) UCSM バージョンが 3 以上の場合、このチェック ボックスは表示されません。
[Search Head to be part of cluster]	デフォルトでは、このオプションはオンで、無効になっています。検索ヘッドロールは、すべての検索ヘッドクラスタに追加されます。
[Validate Page] チェック ボックス	与えられたホスト名プレフィックスとノード数に基づいて admin ホスト名の再計算を行う場合には、[Validate Page] をオンにします。
[Deploy roles on Bare Metal] チェック ボックス	ベアメタルエージェントにロールを配備するには、[Deploy roles on Bare Metal] をオンにします。デフォルトでは、このオプションはオンになっています。ライブノードに admin ロールを配備するには、このオプションをオフにします。
[Use Existing License Master] チェック ボックス	既存のライセンス マスターを使用する場合には、[Use Existing License Master] をオンにします。
[License Master BM] ドロップダウンリスト	ライセンス マスタ ベア メタルを選択します。
[Monitoring Console BM] ドロップダウン リスト	モニタリング コンソール ベア メタルを選択します。
[Cluster Master BM] ドロップダウン リスト	クラスタ マスタ ベア メタルを選択します。
[Deployer BMs] テーブル	デプロイヤ サーバのベア メタルを選択します。
[Deployment Server BMs] テーブル	導入サーバのベア メタルを選択します。

名前	説明
[Current License Master Live IPs]	現在のライセンス マスタの IP アドレスを入力します。このフィールドは、[Use Existing License Master] をオンにした場合に表示されます。
[New License Master Live IP]	新規のライセンス マスタの IP アドレスを入力します。このフィールドは、[Deploy roles on Bare Metal] をオフにした場合に表示されます。
[Monitoring Console Live IP]	モニタリング コンソールの IP アドレスを入力します。このフィールドは、[Deploy roles on Bare Metal] をオフにした場合に表示されます。
[Cluster Master Live IP]	新しいライセンス クラスタ マスターの IP アドレスを入力します。このフィールドは、[Deploy roles on Bare Metal] をオフにした場合に表示されます。
[Deployer Live IPs]	デプロイヤー サーバの IP アドレスを入力します。このフィールドは、[Deploy roles on Bare Metal] をオフにした場合に表示されます。
[Deployment Server Live IPs]	導入サーバの IP アドレスを入力します。このフィールドは、[Deploy roles on Bare Metal] をオフにした場合に表示されます。
[Server Pool] テーブル	<p>選択したノードタイプのクラスタのために使用するサーバプールを入力します。</p> <p>Cisco UCS Manager アカウントおよび選択される組織により、どのサーバプールがこの領域に表示されるかが決まります。</p>

(注) 既存のライセンスング サーバおよび実行中の OS 以外の Splunk クラスタの管理者ロールに提供されるすべてのライブ IP は、Splunk インデックスまたは検索ヘッドクラスタと同じである必要があります。

(注) カンマまたは IP アドレスで区切られたホスト名を提供することができ、ホスト名の解決はCisco UCS Director アプライアンスから行う必要があります。

**ステップ 7** [vNIC テンプレート (vNIC Template) ] テーブルで、クラスタに使用できる vNIC テンプレートを確認し、必要に応じて編集します。

**ステップ 8** vNIC テンプレートを編集する場合、そのテンプレートの行を選択し、[Edit] をクリックします。

**ステップ 9** [Edit vNIC Template Entry] 画面で、次のフィールドに値を入力し、[Submit] をクリックします。

名前	説明
[vNIC Name] ドロップダウン リスト	選択したテンプレートの vNIC の名前。このフィールドは情報提供にのみ使用されます。
[IP プール (IP Pool) ] フィールド	この vNIC に割り当てられた IP アドレスに使用するビッグデータ IP プールを選択します。
[MAC アドレス プール (MAC Address Pool) ] ドロップダウン リスト	このクラスタで使用する MAC アドレスプールを選択します。(既存の UCS SP テンプレートが選択されている場合、このドロップダウン リストは無効です。)
[VLAN ID] フィールド	このクラスタの VLAN ID。(既存の UCS SP テンプレートが選択されている場合、このフィールドは無効です。)

ステップ 10 [サイトの設定] テーブルで、[追加] (+) をクリックして 1 つ以上のサイトを追加します。

ステップ 11 [Add Entry to Site Preferences] 画面で、次のフィールドに入力して、[Submit] をクリックします。

名前	説明
[Site Name] ドロップダウン リスト	このクラスタのサーバがあるサイトを選択します。
[Indexers] フィールド	[Select] をクリックしてサイトのインデクサを選択し、[Select] をクリックします。
[Search Heads] フィールド	[Select] をクリックしてサイトのサーチヘッドを選択し、[Select] をクリックします。
[Replication Factor] ドロップダウン リスト	サイトのレプリケーションファクタを選択します。
[Search Factor] ドロップダウン リスト	サイトの検索要素を選択します。検索ファクタはレプリケーションファクタ以下にする必要があります。

ステップ 12 [Submit] をクリックします。

ステップ 13 送信元およびサイト合計のレプリケーション要素を指定します。

ステップ 14 送信元およびサイト合計の検索要素を指定します。

ステップ 15 [Master Site Name] からマスタ サイトを選択します。

ステップ 16 [送信 (Submit) ] をクリックします。

# ワークフローを使用した Splunk クラスタの作成

Cisco UCS Director Express for Big Dataでは、管理者は、高度なカタログオプションを Splunk クラスタ作成ワークフローにマップすることができます。これにより、サービス エンドユーザはクラスタ作成をトリガーできます。「[Cisco UCS Director エンドユーザ ポータルガイド](#)」を参照してください。

## 始める前に

- サービス プロファイル テンプレートを作成する
- このクラスタに使用する予定の Cisco UCS Manager アカウントにサーバ プールを作成します。「[Cisco UCS Manager 管理ガイド](#)」を参照してください。
- MAC アドレス プールを作成する
- サービス エンドユーザとしてユーザ ロールを持つユーザーを作成します。

- 
- ステップ 1** 管理者の資格情報を使用して Cisco UCS Director Express for Big Data にログインします。
  - ステップ 2** **[オーケストレーション (Orchestration)]** を選択し、**[ワークフロー (Workflows)]** をクリックします。
  - ステップ 3** **[Add Workflow]** をクリックします。
  - ステップ 4** **[Add Workflow Details]** ページで、ワークフロー名を入力し、フォルダを選択します。**[Next]** をクリックします。
  - ステップ 5** **[ユーザ入力を追加 (Add User Inputs)]** ページで、必要な詳細を入力し、**[次へ (Next)]** をクリックします。
  - ステップ 6** **[ユーザ出力の追加 (Add User Outputs)]** ページで、必要な詳細を入力し、**[送信 (Submit)]** をクリックします。
  - ステップ 7** **[ワークフロー デザイナ (Workflow Designer)]** でワークフローをダブルクリックします。
  - ステップ 8** Splunk Cluster の開始タスクを追加します。
  - ステップ 9** ワークフロー入力フィールドにマップする属性を選択します。必要な場合は、**[ユーザ入力にマッピング (Map to User Input)]** チェックボックスをオンにしてユーザ入力を行います~が必要、。
  - ステップ 10** **[Splunk サービス ロール (Splunk Service Role)]** テーブル、**[vNIC テンプレート (vNIC Template)]** テーブル、および **[サイトの設定 (Site Preferences)]** テーブルに必要な詳細を入力し、**[送信 (Submit)]** をクリックします。
  - ステップ 11** **[ポリシー (Policies)]** > **[カタログ (Catalogs)]** を選択し、**[カタログの追加 (Add Catalog)]** をクリックします。
  - ステップ 12** **[カタログの追加 (Add Catalog)]** ページで、カタログの種類を **[詳細 (Advanced)]** として選択し、ワークフローを選択します。**[送信 (Submit)]** をクリックして、ワークフローをカタログにマップします。
  - ステップ 13** サービス エンドユーザ クレデンシヤルを使用して、Cisco UCS Director Express for Big Data にログインします。
  - ステップ 14** **[カタログ (Catalogs)]** を選択します。**[カタログ (Catalogs)]** ページには、サービス エンドユーザの利用可能なカタログのリストが表示されます。

- ステップ 15 カタログを選択し、[リクエストの作成 (Create Request)] をクリックします。[サーバ作成のリクエスト (Create Server Request)] ページには、マップされたユーザ入力が表示されます。
- ステップ 16 必要な詳細を指定します。
- ステップ 17 [Next] をクリックし、[Customize Workflow] ページにクラスタの詳細を入力します。
- ステップ 18 [Next] をクリックし、[Summary] ページでクラスタの詳細を表示します。
- ステップ 19 [送信 (submit)] をクリックして、Splunk クラスタを作成するためのワークフローを開始します。

## Splunk クラスタ作成のカスタマイズ

ユーザは、マルチサイト Splunk クラスタを作成すること、または既存の Splunk クラスタをマルチサイト Splunk クラスタに移行することができます。UCS CPA Migrate Splunk Cluster to Multi-Site ワークフローを使用すれば、既存の Splunk クラスタをマルチサイト Splunk クラスタに移行することができます。移行が実施されるまで、Cisco UCS Director Express for Big Data でアカウントを完全に管理することはできません。ワークフローを実行する前には、アカウントとサイトの情報に合わせて、Splunk Cluster Multisite Configuration Generator タスクを修正する必要があります。

### 始める前に

- UCS サービス プロファイル テンプレートを作成する。
- クラスタ導入テンプレートを作成する。

- ステップ 1 [Solutions] > [Big Data] > [Containers] を選択します。
- ステップ 2 [Cluster Deploy Templates] をクリックします。
- ステップ 3 [Add] をクリックして、Splunk クラスタのクラスタ導入テンプレートを作成します。「[クラスタ導入テンプレートの追加](#)」を参照してください。
- ステップ 4 [Customized Splunk Cluster Creation] をクリックします。
- ステップ 5 [Customized Splunk Cluster Creation] 画面で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Big Data Account Name] フィールド	ビッグデータ アカウントの名前。
[UCSM Policy Name Prefix] フィールド	UCSM ポリシー名のプレフィックス。
[Monitoring Console Protocol] ドロップダウン リスト	[HTTP] または [HTTPS] プロトコルを選択します。
[Monitoring Console Port Number] フィールド	ポート番号を入力します。1024 ~ 65535 の整数を入力します。

名前	説明
[SSH (root) Password] フィールド	SSH ルート パスワード。  (注) SSH ユーザ名は root ユーザに関連します。
[SSH パスワードの確認 (Confirm SSH Password) ] フィールド	SSH ルート パスワードを入力します。
[Splunk Manager のパスワード (Splunk Manager Password) ] フィールド	管理コンソール パスワード。
[Splunk Manager のパスワードの確認 (Confirm Splunk Manager Password) ] フィールド	管理コンソール パスワードを入力します。
[OS バージョン (OS Version) ] ドロップダウン リスト	このクラスタのサーバにインストールするオペレーティング システムを選択します。
[Splunk Distribution Version] ドロップダウン リスト	このクラスタに使用する Splunk ディストリビューションのバージョンを選択します。
[Multi-UCSM] チェック ボックス	複数の UCSM Splunk アカウントを使用する場合、 <b>[Multi-UCSM]</b> チェックボックスをオンにします。  (注) 複数 UCSM アカウント オプションを使用する場合、ステップ 8 で説明されているように、Splunk サーバロールを設定できます。UCSM 固有の入力は、 <b>[Add Entry to UCSM Specific Inputs]</b> テーブルに入力できます。  次のワークフローは、インスタント Splunk クラスタの作成時とカスタマイズされた Splunk クラスタの作成時に作成されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• UCS CPA Multi-UCSM Splunk Cluster WF</li><li>• Single UCSM Server Configuration WF (この WF は UCSM アカウントごとにトリガーされます。たとえば、UCSM 120、UCSM 121)</li><li>• UCS CPA ノードベア メタル (このワークフローは、ノードごとにトリガーされます)</li></ul>
[UCS Manager Account] ドロップダウン リスト	このクラスタの Cisco UCS Manager アカウントを選択します。
[Organization] ドロップダウン リスト	このクラスタのサーバがある組織を選択します。

名前	説明
[UCS SP Template] テーブル	クラスタの作成に、既存の UCS サービスプロファイルテンプレートを選択します。
[PXE VLAN ID] フィールド	PXE VLAN ID を入力します。

**ステップ 6** Splunk サーバロールを編集するには、[Splunk Server Roles] テーブルでそのロールの行を選択して、[Edit] をクリックします。

**ステップ 7** [Edit Splunk Server Roles Entry] 画面で、次のフィールドに値を入力し、[Submit] をクリックします。  
[Edit Splunk Server Roles Entry] で表示されるフィールドは、サーバのロールに基づいたものです。

(注) ベアメタルエージェントでの導入や、ライセンスマスタ、クラスタマスタ、および導入サーバのベアメタルの選択を行う管理者ロールは、新規にクラスタを作成する場合にのみサポートされます。また、管理者ロールに既存の IP アドレスを割り当てることも、新規にクラスタを作成する場合にのみサポートされます。

名前	説明
[Node Type] フィールド	Splunk ノードのロールを表示します。
[Node Count] フィールド	Splunk クラスタ内の選択したノードタイプのノード数です。
[Host Name Prefix] ドロップダウンリスト	この Splunk クラスタのホスト名のプレフィックスを選択します。
[SSD Boot Drives Available for OS] チェックボックス	RAID レベル OS ディスクのサーバディスクの可用性を確認しない場合は、このチェックボックスをオンにします。サーバに SSD が含まれていることを確認します。  チェックボックスをオンにしていない場合、その RAID レベルに基づいて、OS ディスクとデータディスクの両方のディスクの可用性が検証されます。  (注) UCSM バージョンが 3 以上の場合、このチェックボックスは表示されません。
[Search Head to be part of cluster]	デフォルトでは、このオプションはオンで、無効になっています。検索ヘッドロールは、すべての検索ヘッドクラスタに追加されます。
[Validate Page] チェックボックス	与えられたホスト名プレフィックスとノード数に基づいて admin ホスト名の再計算を行う場合には、[Validate Page] をオンにします。

名前	説明
[Deploy roles on Bare Metal] チェック ボックス	ベアメタルエージェントにロールを配備するには、 <b>[Deploy roles on Bare Metal]</b> をオンにします。デフォルトでは、このオプションはオンになっています。ライブノードに admin ロールを配備するには、このオプションをオフにします。
[Use Existing License Master] チェック ボックス	既存のライセンスマスターを使用する場合には、 <b>[Use Existing License Master]</b> をオンにします。
[License Master BM] ドロップダウンリスト	ライセンス マスタ ベア メタルを選択します。
[Monitoring Console BM] ドロップダウン リスト	モニタリング コンソール ベア メタルを選択します。
[Cluster Master BM] ドロップダウン リスト	クラスタ マスタ ベア メタルを選択します。
[Deployer BMs] テーブル	デプロイヤー サーバのベア メタルを選択します。
[Deployment Server BMs] テーブル	導入サーバのベア メタルを選択します。
[Current License Master Live IPs]	現在のライセンス マスタの IP アドレスを入力します。このフィールドは、 <b>[Use Existing License Master]</b> をオンにした場合に表示されます。
[New License Master Live IP]	新規のライセンス マスタの IP アドレスを入力します。このフィールドは、 <b>[Deploy roles on Bare Metal]</b> をオフにした場合に表示されます。
[Monitoring Console Live IP]	モニタリング コンソールの IP アドレスを入力します。このフィールドは、 <b>[Deploy roles on Bare Metal]</b> をオフにした場合に表示されます。
[Cluster Master Live IP]	新しいライセンス クラスタ マスターのを IP アドレスを入力します。このフィールドは、 <b>[Deploy roles on Bare Metal]</b> をオフにした場合に表示されます。
[Deployer Live IPs]	デプロイヤー サーバの IP アドレスを入力します。このフィールドは、 <b>[Deploy roles on Bare Metal]</b> をオフにした場合に表示されます。
[Deployment Server Live IPs]	導入サーバの IP アドレスを入力します。このフィールドは、 <b>[Deploy roles on Bare Metal]</b> をオフにした場合に表示されます。

名前	説明
[Server Pool] テーブル	<p>選択したノードタイプのクラスタのために使用するサーバプールを入力します。</p> <p>Cisco UCS Manager アカウントおよび選択される組織により、どのサーバプールがこの領域に表示されるかが決まります。</p>

**ステップ 8** [vNIC Template] テーブルで、クラスタに使用できる vNIC テンプレートを確認し、必要に応じて編集します。

**ステップ 9** vNIC テンプレートを編集する場合、そのテンプレートの行を選択し、[Edit] をクリックします。

**ステップ 10** [Edit vNIC Template Entry] 画面で、次のフィールドに値を入力し、[Submit] をクリックします。

名前	説明
[vNIC Name] ドロップダウン リスト	選択したテンプレートの vNIC の名前。このフィールドは情報提供にのみ使用されます。
[IP Pool] フィールド	この vNIC に割り当てられた IP アドレスに使用するビッグデータ IP プールを選択します。
[MAC Address Pool] ドロップダウン リスト	このクラスタで使用する MAC アドレスプールを選択します。（既存の UCS SP テンプレートが選択されている場合、このドロップダウン リストは無効です。）
[VLAN ID] フィールド	このクラスタの VLAN ID。（既存の UCS SP テンプレートが選択されている場合、このフィールドは無効です。）

(注) vNIC ボンディングを使用する場合、[vNIC Template] テーブルの最初の vNIC に、IP プール、MAC アドレスプールおよび VLAN ID を割り当てていることを確認します。

**ステップ 11** [Site Preferences] テーブルで [Add (+)] をクリックして 1 つまたは複数のサイトを追加します。

**ステップ 12** [Add Entry to Site Preferences] 画面で、次のフィールドに入力して、[Submit] をクリックします。

名前	説明
[Site Name] ドロップダウン リスト	このクラスタのサーバがあるサイトを選択します。
[Indexers] フィールド	[Select] をクリックしてサイトのインデクサを選択し、[Select] をクリックします。
[Search Heads] フィールド	[Select] をクリックしてサイトのサーチヘッドを選択し、[Select] をクリックします。
[Replication Factor] ドロップダウン リスト	サイトのリプリケーションファクタを選択します。

名前	説明
[Search Factor] ドロップダウンリスト	サイトの検索要素を選択します。検索ファクタはレプリケーションファクタ以下にする必要があります。

- ステップ 13 [Submit] をクリックします。
- ステップ 14 送信元およびサイト合計のレプリケーション要素を指定します。
- ステップ 15 送信元およびサイト合計の検索要素を指定します。
- ステップ 16 [Master Site Name] からマスタ サイトを選択します。
- ステップ 17 [送信 (Submit) ] をクリックします。

## Splunk クラスタへの ベア メタル ノードの追加

ベア メタル ノードをシングルサイト Splunk クラスタに追加するには、UCS CPA マルチサイトへの Splunk クラスタの移行ワークフローを使用して、クラスタをマルチサイト Splunk クラスタに移行する必要があります。

- ステップ 1 [Solutions] > [Big Data] > [Accounts] を選択します。
- ステップ 2 [Splunk アカウント] をクリックします。
- ステップ 3 Splunk アカウントをダブルクリックします。  
[ホスト (Hosts) ] タブのみ表示できます。
- ステップ 4 [ベア メタル ノードを追加] をクリックします。
- ステップ 5 [Add Bare Metal Nodes] 画面で、次のフィールドに値を入力します:

名前	説明
[Big Data Account Name] フィールド	ビッグデータ アカウントの名前。
[UCSM Policy Name Prefix] フィールド	UCSM ポリシー名のプレフィックス。
[モニタリング コンソール ポート番号] フィールド	ポート番号を入力します。1024 ~ 65535 の整数を入力します。  Web サーバのパスに到達できるように、Linux OS による予約済みポートの使用は避ける必要があります。
[モニタリング コンソール プロトコル] ドロップダウンリスト	HTTP または HTTPS プロトコルを選択します。

名前	説明
[OS バージョン (OS Version) ] ドロップダウン リスト	このクラスタのサーバにインストールするオペレーティングシステムを選択します。
[Splunk バージョン (Splunk Version) ] ドロップダウン リスト	Splunk のバージョンを選択します。
[UCS Manager Account] ドロップダウン リスト	このクラスタの Cisco UCS Manager アカウントを選択します。
[Organization] ドロップダウン リスト	このクラスタのサーバがある組織を選択します。
[UCS SP テンプレート (UCS SP Template) ]	クラスタの作成に、既存の UCS サービスプロファイルテンプレートを選択します。
[PXE VLAN ID (PXE VLAN ID) ] フィールド	PXE VLAN ID を入力します。
[UCSTemplate 名 (UCSTemplate Name) ] テーブル	Splunk の UCS サービスプロファイルテンプレートを選択します。

ステップ 6 [Splunk サーバ ロール] テーブルには、Splunk サーバ ロールを編集するには、そのロールの行を選択して、[編集 (Edit) ] をクリックします。

ステップ 7 [Splunk サーバ ロール入力の編集 (Edit Splunk Server Roles Entry) ] 画面で、次のフィールドに値を入力し、[送信 (Submit) ] をクリックします。

名前	説明
[Node Type] フィールド	Splunk ノードのロールを表示します。
[Node Count] フィールド	Splunk クラスタ内の選択したノードタイプのノード数です。
[Host Name Prefix] ドロップダウン リスト	この Splunk クラスタのホスト名のプレフィックスを選択します。
[SSD Boot Drives Available for OS] チェック ボックス	RAID レベル OS ディスクのサーバディスクの可用性を確認しない場合は、このチェックボックスをオンにします。サーバに SSD が含まれていることを確認します。  チェック ボックスをオンにしていない場合、その RAID レベルに基づいて、OS ディスクとデータディスクの両方のディスクの可用性が検証されます。  (注) UCSM バージョンが 3 以上の場合、このチェック ボックスは表示されません。

名前	説明
[Search Head to be part of cluster]	デフォルトでは、このオプションはオンで、無効になっています。検索ヘッドの役割は、すべての検索ヘッドクラスタに追加されます。
[サーバプール (Server Pool) ] テーブル	<p>選択したノードタイプのクラスタのために使用するサーバプールを入力します。</p> <p>Cisco UCS Manager アカウントおよび選択される組織により、どのサーバプールがこの領域に表示されるかが決まります。</p>

ステップ 8 [vNIC Template] テーブルで、クラスタに使用できる vNIC テンプレートを確認し、必要に応じて編集します。

ステップ 9 vNIC テンプレートを編集する場合、そのテンプレートの行を選択し、[Edit] をクリックします。

ステップ 10 [Edit vNIC Template Entry] 画面で、次のフィールドに値を入力し、[Submit] をクリックします。

表 1:

名前	説明
[vNIC 名 (vNIC Name) ] ドロップダウン リスト	このフィールドは情報提供にのみ使用されます。
[IP Pool] ドロップダウン リスト	この vNIC に割り当てられた IP アドレスに使用するビッグデータ IP プールを選択します。
[MAC アドレス プール (MAC Address Pool) ] ドロップダウン リスト	このクラスタで使用する MAC アドレスプールを選択します。(既存の UCS SP テンプレートが選択されている場合、このドロップダウン リストは無効です。)
[First MAC Address] フィールド	このクラスタで使用する MAC アドレスプールを選択します。
[Size] フィールド	サイズを入力します。
[VLAN ID] フィールド	このクラスタの VLAN ID。

ステップ 11 [送信 (submit)] をクリックします。

(注) デフォルトでは、ハードウェアのデフォルトはクラスタ内のサーバの UUID プールとして使用します。

ステップ 12 [サイトの設定] テーブルで、[追加] (+) をクリックして 1 つ以上のサイトを追加します。

(注) [編集] をクリックして、既存のサイトにノードを追加します。

ステップ 13 [サイトの環境設定へのエントリの追加] 画面で、次のフィールドに必要な情報を入力して [送信 (submit)] をクリックします。

名前	説明
[Site Name] ドロップダウン リスト	このクラスタのサーバがあるサイトを選択します。
[Indexers] フィールド	[Select] をクリックしてサイトのインデクサを選択し、[Select] をクリックします。
[Search Heads] フィールド	[Select] をクリックしてサイトのサーチヘッドを選択し、[Select] をクリックします。
[Replication Factor] ドロップダウン リスト	サイトのリプリケーションファクタを選択します。
[Search Factor] ドロップダウン リスト	サイトの検索要素を選択します。検索ファクタはレプリケーションファクタ以下にする必要があります。

ステップ 14 [Submit] をクリックします。

ステップ 15 オリジンとサイト全体のリプリケーションファクタを指定します。

ステップ 16 オリジンとサイト全体の検索ファクタを指定します

ステップ 17 [送信 (Submit)] をクリックします。

## Splunk ディストリビューションから到達不能なクラスタ ノードを削除する

Splunk ディストリビューションでは、ノードが到達不能で、ノードのステータスが [Unknown] と表示されている場合には、[Delete Node to Bare Metal] をクリックして、ノードを削除することができます。ノードは Splunk ユーザ インターフェイスから削除され、ステータスは Cisco UCS Director Express for Big Data ユーザ インターフェイスで更新されなくなります (CSCvg90939 のバグを参照)。Cisco UCS Director Express for Big Data ユーザ インターフェイスからノードを削除するには、[Delete Node] をクリックする必要があります。

## NFS をサポートしてアーカイブのノードに Splunk クラスタを展開する

以下は、アーカイブのノードに Splunk クラスタを展開するシナリオです:

- アーカイブ ノードに Splunk クラスタを構成する — アーカイブのノードは、自動的にクラスタとともに構成されます。

- ベアメタルでのアーカイブノードの設定 — ベアメタルのオプションは、ホスト名のプレフィックス、アーカイブのノード数、およびサーバプールと同様に、アーカイブのノードの設定に追加できます。ノードが起動すると、UCS CPA Splunk のライブアーカイブノード追加のワークフローが使用されて、ノード上の NFS に関連した設定が構成され、インデクサ上にマウントポイントが構成されます。
- ライブノード上にアーカイブノードを構成する — これは、ノード上に NFS に関連した設定を構成し、それをクラスタに追加するために使用できます。

インデクサにアーカイブノードディスクを割り当てる方法の詳細については、最新の『*Splunk Enterprise* とビッグデータ用の *Cisco UCS* 統合インフラストラクチャ』を参照してください。

## Splunk クラスタの管理

Splunk クラスタは **[Hosts]** タブから管理できます。

- ステップ 1** **[Solutions]** > **[Big Data]** > **[Accounts]** を選択します。
- ステップ 2** **[Splunk Accounts]** をクリックします。
- ステップ 3** 選択した Splunk アカウントの統計データ レポート、およびクラスタとノードアカウントのハイレベルレポートを表示するには、**[Summary]** をクリックします。
- ステップ 4** **[Hosts]** をクリックして、次のアクションを実行します:

名前	説明
<b>[更新 (Refresh) ]</b>	ページを更新します。
お気に入り (Favorite)	ページをお気に入りに追加します。
<b>Add Bare Metal Nodes</b>	Splunk クラスタにベアメタルノードを追加します。 <b>[Add Bare Metal]</b> ワークフローで、インデクサ、検索ヘッド、または管理ノードを追加できます。インデクサアカウントに基づいてレプリケーションファクタを指定する必要があります。

(注) Splunk クラスタを開始、停止、または再起動することもできます。

- ステップ 5** 次のアクションを実行できるホストを選択します。

名前	説明
<b>[詳細の表示 (View Details) ]</b>	CPU 使用率、ホストディスクの入出力ステータスなどの概要が表示されます。  (注) <b>[License Status]</b> タブが表示された場合、ライセンスに問題があることを意味しています。

名前	説明
<b>Start</b>	ノードのサービスを開始します。
<b>Stop</b>	ノードのサービスを停止します。
<b>[詳細の表示 (View Details) ]</b>	ノードのサービスを再起動します。
<b>Restart</b>	クラスタからノードを削除します。
<b>Delete Node to Bare Metal</b>	ノードがクラスタから削除され、サービスプロファイルとの関連付けが解除されます。ノードでは、ベアメタルサーバになります。

**ステップ 6** アカウントを選択し、[詳細の表示 (View Details) ]をクリックします。

Splunk クラスタを開始、停止、または再起動できます。

**ステップ 7** [Performance] タブをクリックします。

**ステップ 8** [テストを実行 (Run Test) ]をクリックします。

[パフォーマンス (Performance) ] タブは、デフォルトのビッグデータ メトリック レポートを表示します。[管理 (Management) ] タブの [クラスタ前パフォーマンステスト (Pre Cluster Performance Tests) ] セクションの [メモリ テスト (Memory Test) ]、[ネットワーク テスト (Network Test) ]、および [ディスク テスト (Disk Test) ] チェックボックスをオンにしている場合、このレポートは、Splunk クラスタ作成前に各ホストに収集された統計情報および Splunk クラスタ作成後のレポートを示します。クラスタ前ディスク テストを有効にしている場合、Splunk クラスタの作成に影響します。

**ステップ 9** [Submit] をクリックしてから、[OK] をクリックします。

次の操作では、パフォーマンス テストを選択します。

名前	説明
<b>表示 (View)</b>	ビッグデータ メトリック レポートのメトリックを表示します。
<b>Compare</b>	ビッグデータ メトリック レポートのメトリックを比較し、表示します。
<b>View Graph Report</b>	[概要 (Summary) ] タブから次のレポートをグラフィカルに表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 平均 TRIAD レート (MB/Sec)</li> <li>• 平均ネットワーク帯域幅 (MB/Sec)</li> </ul>
<b>[削除 (Delete) ]</b>	ビッグデータ メトリック レポートを削除します。
<b>More Reports</b>	毎時間、毎日、毎週、毎月のメトリックを表示します。

**ステップ 10** **[Monitoring]** をクリックします。

インベントリを収集するたびに、集約 CPU、ネットワーク帯域幅、ディスク使用率のメトリックをリストするエントリは **[モニタリング (Monitoring)]** ページに表示されます。

**ステップ 11** 分析するエントリを選択して **[詳細の表示 (View Details)]** をクリックします。

**ステップ 12** **[モニタリング (Monitoring)]** ページに戻るには、**[戻る (Back)]** をクリックします。

---

